

特集2

保育園の取り組み紹介

● はぐはぐキッズ洗足池(東京都大田区)



全員保育

挑戦する姿を支える

東京都品川区

認証保育園 BunBu学院Jr.戸越園

INFORMATION



BunBu学院Jr. 戸越園

入所定員 0～2歳児 40名

社員数 株式会社BunBuKids 55名
(2026年3月1日現在)

設立年 株式会社BunBuKids 2007年6月
認証保育園BunBu学院Jr.戸越園
2014年4月

運営会社 株式会社BunBuKids

年齢で
「できない」と決めない
子どもの姿から
活動を組み立てる

活動内容に子どもを当てはめるのではなく、
日々の姿を見ながら職員同士で話し合い、
活動を決めていくスタイルの「戸越園」。
年齢や前例で「まだ難しい」と判断せず、
どうすれば安全に経験できるかを検討、
準備を重ねて実施しています。

挑戦の心を応援！ 園服で保育者も親も子も“三方よし”

BunBu学院Jr. 戸越園を運営する株式会社BunBu Kidsは創業以来、「手ぶら保育」を導入。近年、おむつサブスクの導入が広がっていますが、その先駆けといえます。これは、2児の母親でもある創業者が保育園を利用していた頃、荷物の多さにうんざりした経験をもとに始めた取り組みでした。

また、戸越園では、子どもたちは園



で用意した園服で過ごします。汚れたらその都度、着替えて園がまとめて洗濯する方式です。

保護者から寄せられる感想の中には、「毎日の荷物が少なくていいことも通いやすい理由の一つ」といった声も。日々の膨大な荷物を減らすことで、保護者だけでなく、保育者にもメリットがあります。まず、園服もおむつも、個別に管理する手間が省けます。

そして、篠田理絵園長が考える最大のメリットは、子どもたちが思いきりチャレンジできること。例えば、制作の時、子どもが絵の具のついた手で服を触ってしまうのはよくあること。もし、私服だと「汚れてもいいです」と保護者から言わ



れていても、派手に汚せば、さすがに気になるもの。でも、園服はすべて園で洗濯するので、汚れても、何度着替えても、気にすることなく、「自由にやっついよ！」と言えます」（篠田園長）。

この考え方は、子どもの「やってみたい」気持ちを尊重する戸越園ならではの特色といえます。BunBu Kidsの齊藤光夫代表は、戸越園の取り組みについて、「子どもたちの姿をもとに活動を決め、挑戦できる経験を積み重ねていく保育を大切にしております。手ぶら保育もその挑戦を支えるための環境作りの一部です」と語っています。

子どもの姿に活動のヒント 年齢で「できない」と決めつけない

戸越園では、専門講師による教育プログラム（英語、空手、体操）を提供しています。毎週木曜の英語はイギリス人講師が担当。歌やリズムで楽しく英語に親しめるカリキュラムが子どもたちに大人気です。空手や体操は隔週水曜に実施。特に、礼節を大切にする空手は、心身の鍛錬もねらいの一つ。正しい姿勢や挨拶、そして、気持ちの切り替え方を学ぶことで、子どもたちの心と体を整える時間を大切にしています。

一方、知育は園児の興味・関心、発達に合わせたカリキュラムを園が策定しています。フラッシュカードを使って右脳を鍛える取り

組みも行います。例えば、人の顔を覚えるのが得意な園児がいれば、世界の著名人の顔写真やイラストを載せた手作りのカードを作成。子どもたちの姿から次の活動を考える、戸越園ならではの方針です。

2歳児クラスは自分の名前をひらがなで書くことにも挑戦します。「この年齢だからまだできない」と決めつけないのも、園の特色です。

さらには、生活面の自立も知育と位置付け、家庭では時間をかけることが難しい部分を丁寧にサポート。例えば、0歳児がスプーンを持って食事を楽しむことも知育と捉えます。さまざまな「できた！」という小さな成功体験の積み重ねを通し、園児たちの自己肯定感を育みたい——。知育の時間に込められた願いです。

「習い事と保育の一体化」を掲げる

戸越園。BunBu Kidsの齊藤代表は、その背景に「保育園でも教育を充実させたい」という創業以来の理念があるとしています。そして目指すところは、「これからの時代に求められる能力を育てる保育を実践することで、保育の質を高めたい」（齊藤代表）。

篠田園長も「プロの講師の力を借りながら、習い事の中で得た気付きや経験を日々の保育にどう活かせるか」を考えながら、保育と向き合っています。



INTERVIEW

齊藤代表 &
篠田園長に聞く

Q 保育の質向上へ、
どう取り組んでいますか？

篠田園長 活動を決めてから子どもを当てはめるのではなく、子どもたちの姿から保育を組み立てています。「この年齢ではまだ早い」と決めつけるのではなく、子どもたちが「やってみたい」と感じた気持ちを尊重したいです。そして、興味を持つきっかけをたくさん用意することを意識しています。成功も失敗も含めた一つ一つの経験が、子どもたちの自己肯定感につながると考えます。

Q 園外保育に力を入れていますね。

篠田園長 園外保育へ行くまでには、大人の話をきちんと聞

いたり、ルールを守ったりすることを身に付けています。2歳児クラスは年長児としての自覚が芽生えているからこそ、園外でも危険な行動がないのかなと思います。

子どもたちの可能性を信じて、さまざまなことに挑戦させたいですね。

Q ほかにどのようなイベントがありますか？

篠田園長 最近はいきつぷを買って電車に乗る機会が減っています。そこで、電車遠足を行い、あえて子ども用の切符を購入し(※本来は無料)、改札機を通る体験をしました。ある園児は、おうちで自分の枕元にきつぷを置いて寝たとお聞きし、電車遠足が子どもたち

番外編

2歳児は最年長！
園外保育に見る
成長の姿

0～2歳児を預かる戸越園では2歳児クラスが最年長。篠田園長の目に映る2歳児たちには、お兄さん、お姉さんの意識が芽生えているといいます。

そんな2歳児クラスのお楽しみは、年に2～3回実施される園外保育。バスなどを利用し、過去にはテーマパークや科学館、東京タワー等々へ遠征。

直近では高尾山登山に挑戦。頂上までは行かないものの、大人の足で1時間ほどのコースを2時間で到達。誰一人、「抱っこ～」と音上げる子はいませんでした。むしろ大人たちに「早く！」と促す子も。2歳児の成長が感じられる一日となりました。

Q イベントに注力する一方、職員の負担はいかがでしょうか。

篠田園長 職員は準備物が大変そうだと思うかもしれませんが、そこは工夫しています。

保育士というのは担任に業務の負担が集中しやすい仕事だと感じています。そこで、戸越園ではクラス担任以外は固定せず、その日ごとに最適な人員を配置しています。きょうは〇〇先生が2歳児クラス、××先生が0歳児クラスというように日ごとに決めて、全員保育で当たります。

保育士同士が連携を密に取り合つて、残業や持ち帰り業務をせず、業務時間内に完結できる体制を園長として常に心がけています。簡単ではないですが、自分が大変な時は周囲に助けを求めたり、周囲も自然とフォローしたりできる関係性も必要だと

思います。

Q 代表の受け止めはいかがですか？

齊藤代表 戸越園は全員で保育に取り組んでいるので、「あの先生じゃないと詳細がわからない」というのがあります。

どの先生に聞いても子どものことを把握しているので、保護者もストレスが少ないのではないのでしょうか。

担任に業務を集中させないことで、結果的に保護者にも安心していただける。そして、子どものために注力できる好循環となっています。

Q 今後の抱負をお聞かせください。

齊藤代表 近年は自由遊びを中心とする傾向もありますが、弊社では子どもたちの「やってみたい」という個人の意欲を最大限に尊重しつつ、社会性の基礎となる集団でのルールや礼節を学ぶ機会も等しく重要だと考えています。

少子化が進み、保育園も定員割れが起きている時代です。子どもの可能性は、年齢や前例ではなく、経験の質によって広がると考えています。その視点を大切にしながら、これからの時代に求められる保育を実践していきたいと思っています。



園長
篠田 理絵
shinoda rie

洗足子ども短期大学を卒業。保育士資格・幼稚園教諭免許を取得。幼稚園で勤務後、保育現場を経て27歳で園長に就任。子どもたちの挑戦と「できた!」を大切にしたい保育に携わる。



代表
齊藤 光夫
saito mitsuo

大学卒業後、英会話教育企業に入社。運営兼営業部門統括役員として東証マザーズ上場に携わる。退社後、教育事業に関わり、現在は子どもの可能性を広げる教育事業に取り組む。

こいく 第7号 2026年 5月発行

第7号 2026年5月31日発行（年刊） 発行所：公益社団法人 日本こども育成協議会
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1 東京都大久保分庁舎201

定価350円
（本体319円）

特集1

第19回 2026
ニッポンの保育
フォーラム 開催レポート

講演①

「暮らしと保育」

対になることの意味

日本こども育成協議会 代表理事
グレンデイキッズ園長 溝口 義朗

講演②

子どもたちが幸せになるために
社会的に満たされるとは

一般社団法人家族・保育デザイン研究所
代表理事 汐見 稔幸

講演③

保育と幸せの主体性

大妻女子大学
家政学部児童学科児童学専攻 准教授 久保 健太

講演④

保育のウェルビーイングとは

保育システム研究所代表 吉田 正幸

保育と幸せ2

特集2

保育園の
取り組み紹介

東京都大田区

はぐはぐキッズ株式会社
（フラストグループ）

はぐはぐキッズ洗足池

東京都品川区

株式会社BunBuKids

認証保育園 BunBu学院Jr.戸越園

千葉県佐倉市

SOUキッズケア株式会社

Lakeside
International Childcare

日本こども育成協議会

育7号 ごあいさつ／研修報告2025

コンプライアンス事故予防について

ニッポンの保育フォトコンテスト

賛助会員様PR

公益社団法人 日本こども育成協議会 発行